

平成25年度第3四半期までの運用状況等

(平成25年4月～12月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っており、法令に基づき策定しました「独立行政法人農業者年金基金中期計画」において、四半期ごとに運用に関する情報を、本資料をもってホームページで公表することとしております。

なお、毎年6月末日までに被保険者等の皆様に送付させていただいております「運用（付利）結果のお知らせ」の基礎となります前年度の運用成績につきましては、毎年度の末日における運用収入の額が基準となります。

当基金が行っています年金資産の運用については、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績がプラスになる年やマイナスになる年がありますが、長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思っておりますので、皆様の御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成25年3月29日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 平成25年度第3四半期（平成25年4月～12月）までの運用環境について	1
2. 平成25年度第3四半期（平成25年4月～12月）までのポートフォリオ別の運用状況 . . .	2
3. ベンチマーク・インデックスの推移	4
（参考） 用語の説明	5

1. 平成25年度第3四半期（平成25年4月～12月）までの運用環境について

（第1四半期）

国内外株式は、4月4日に発表された日銀の「量的・質的金融緩和」や連邦準備制度理事会（FRB）が金融緩和を継続するとの期待等から、国内株式、外国株式ともに上昇しました。5月下旬以降は、FRBの量的緩和第3弾（QE3）の早期縮小観測等を背景に乱高下する場面もありましたが、上昇して第1四半期を終えました。債券市場は、10年国債利回りは日銀の「量的・質的金融緩和」を受けて一時史上最低の0.315%まで低下しましたが、その後は上昇し0.85%となりました。米国10年国債利回りは2.49%となりました。為替は、円安が進行し、対ドルで99円34銭、対ユーロで129円12銭となりました。

（第2四半期）

国内外株式は、国内外の経済指標の改善やバーナンキFRB議長が当面の金融緩和の継続を示唆したこと等を背景に上昇して始まりしました。8月下旬にかけてのQE3の縮小観測の高まりや月末のシリア情勢の緊迫化等を背景に下落したものの、9月に入ると、シリア情勢の緊張の緩和に加えて、国内株式では2020年夏季オリンピックの開催地が東京に決定したことを受け、それぞれ上昇基調に転じました。9月18日にFRBが市場予想に反してQE3の縮小を見送ると一段高となったものの、米国の債務上限問題への懸念等から月末にかけて下落しましたが、上昇して第2四半期を終えました。債券市場は、10年国債利回りは低下基調で推移し0.68%となりました。米国10年国債利回りは一時3%近辺まで上昇したものの、FRBがQE3縮小を見送ったこと等により2.61%に低下しました。為替は、対ドルで98円12銭、対ユーロで132円83銭となりました。

（第3四半期）

国内外株式は、10月上旬に米国の債務上限問題を背景に下落した後、債務上限を巡る与野党合意やQE3の縮小先送り観測を背景に上昇しました。11月は、10月の米国の雇用統計の予想を上回る改善や14日に米国議会公聴会でイエレン次期FRB議長による金融緩和の継続のスタンスが明確に示されたこと等を背景に上昇しました。12月上旬に年内のQE3の縮小開始が想起されたことから下落したものの、18日の連邦公開市場委員会（FOMC）によるQE3の縮小の決定と併せてゼロ金利を相当な期間維持する旨の指針が発表されたこと等を好感し、上昇して第3四半期を終えました。債券市場は、世界的な株高やQE3の縮小の決定等を受けて、10年国債利回りは0.74%に、米国10年国債利回りは3.03%に、それぞれ上昇しました。為替は、欧米金利の上昇等を背景に円安が進行し、対ドルで105円11銭、対ユーロで144円83銭となりました。

2. 平成25年度第3四半期(平成25年4月～12月)までのポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

平成25年度第3四半期(平成25年4月～12月)までの被保険者及び期待者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、平成25年12月末時価総額は1,986億28百万円となり、第3四半期までの総合収益は151億50百万円となりました。また、修正総合利回りは8.33%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	平成24年度末 時価総額	平成25年12月末 時価総額	時価総額構成割合	第3四半期まで の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	115,338	131,157	66.0	605	0.48
自家運用	56,863	55,459	27.9	554	0.97
外部運用	58,476	75,697	38.1	51	0.07
国内株式	27,698	25,234	12.7	6,154	26.35
外国債券	8,708	10,045	5.1	1,227	13.97
外国株式	26,893	26,103	13.1	7,156	30.98
短期資産	-460	6,089	3.1	7	-
合 計	178,178	198,628	100.0	15,150	8.33

- (注) 1. 国内債券のうち自家運用(満期保有目的)については、償却原価法(定額法)を適用しています。
 2. 平成24年度末時価総額は、平成24年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産のマイナス460百万円は、決算整理前の額1,623百万円から被保険者危険準備金ポートフォリオへの繰入額2,082百万円を減算した額です。
 3. 平成25年12月末時価総額(合計)は、平成24年度末時価総額178,178百万円に、第3四半期までの追加投資額等5,300百万円及び総合収益15,150百万円を加算した額198,628百万円となりました。
 4. 短期資産の修正総合利回りの数値は、自家運用分については0.029%となりますが、外部運用分については保管手数料等が含まれているため、表示していません。なお、保管手数料等を整理する前の外部運用分の利回りは0.048%となります。
 5. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります(以下同じ。)

(参考)

平成25年度第3四半期(平成25年10月～12月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資 産	平成25年9月末 時価総額	平成25年12月末 時価総額	時価総額構成割合	第3四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	133,268	131,157	66.0	306	0.23
自家運用	58,115	55,459	27.9	180	0.31
外部運用	75,154	75,697	38.1	126	0.17
国内株式	22,978	25,234	12.7	2,120	9.13
外国債券	9,460	10,045	5.1	728	7.76
外国株式	22,593	26,103	13.1	3,689	16.34
短期資産	60	6,089	3.1	8	-
合 計	188,359	198,628	100.0	6,851	3.63

- (注) 平成25年12月末時価総額(合計)は、平成25年9月末時価総額188,359百万円に、当年度第3四半期の追加投資額等3,417百万円及び総合収益6,851百万円を加算した額198,628百万円となりました。

② 受給権者ポートフォリオ

平成25年度第3四半期(平成25年4月～12月)までの受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっており、年金給付等の原資は確保されています。

(単位:百万円)

資 産	平成24年度末 時価総額	平成25年12月末 時価総額
国内債券	19,519	24,142
短期資産	105	352
合 計	19,624	24,494

(注) 平成24年度末時価総額は、平成24年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の105百万円は、決算整理前の額76百万円に、受給権者危険準備金ポートフォリオからの受入額29百万円を加算した額です。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

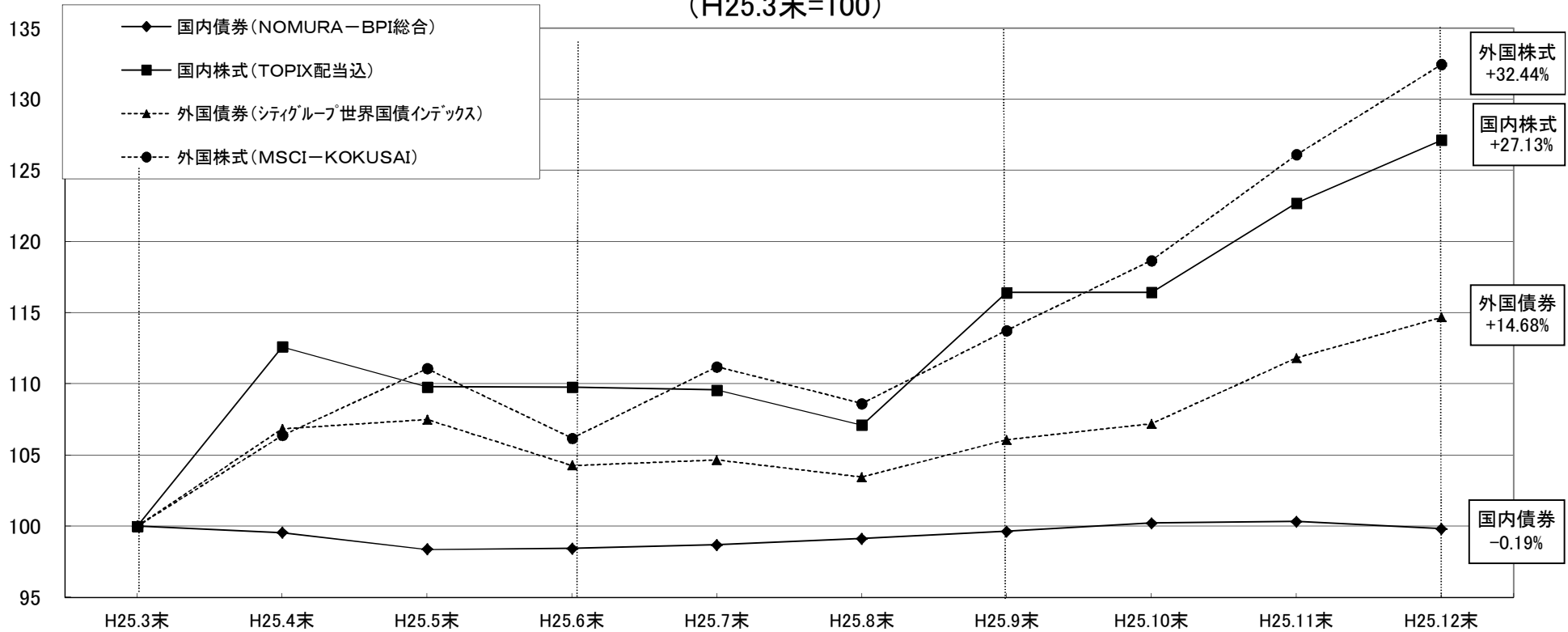
平成25年度第3四半期(平成25年4月～12月)までの危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	平成24年度末 時価総額	平成25年12月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	2,723	2,727
	調整準備金	短期資産	1,692	1,632
	合 計		4,415	4,360
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	938	1,094

(注) 平成24年度末時価総額は、平成24年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計4,415百万円は、決算整理前の合計2,333百万円に、被保険者ポートフォリオからの受入額2,082百万円を加算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の938百万円は、決算整理前の額967百万円から受給権者ポートフォリオへの繰入額29百万円を減算した額です。

3. ベンチマーク・インデックスの推移 (H25.3末=100)



○運用環境

	平成25年3月末	平成25年6月末	平成25年9月末	平成25年12月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	0.560 %	0.845 %	0.680 %	0.738 %
(NOMURA-BPI総合)	350.764 ポイント	345.262 ポイント	349.462 ポイント	350.094 ポイント
国内株式 (日経225)	12,397.91 円	13,677.32 円	14,455.80 円	16,291.31 円
(TOPIX配当込)	1,373.53 ポイント	1,507.70 ポイント	1,598.95 ポイント	1,746.17 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	1.850 %	2.487 %	2.611 %	3.029 %
(独10年国債利回り)	1.289 %	1.728 %	1.779 %	1.929 %
(シティグループ世界国債インデックス)	359.29 ポイント	374.62 ポイント	381.13 ポイント	412.03 ポイント
外国株式 (NYダウ)	14,578.54 ドル	14,909.60 ドル	15,129.67 ドル	16,576.66 ドル
(独DAX指数)	7,795.31 ポイント	7,959.22 ポイント	8,594.40 ポイント	9,552.16 ポイント
(MSCI-KOKUSAI)	1,567.388 ポイント	1,664.236 ポイント	1,782.954 ポイント	2,075.881 ポイント
為替レート (対ドル)	94.02 円	99.34 円	98.12 円	105.11 円
(対ユーロ)	120.73 円	129.12 円	132.83 円	144.83 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし、円ベース)

シティグループ・グローバル・マーケット・インクが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、円換算)

MSCI Incが作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。